

写真3

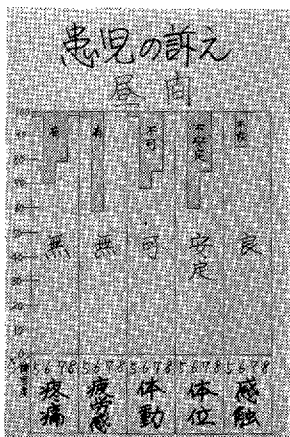
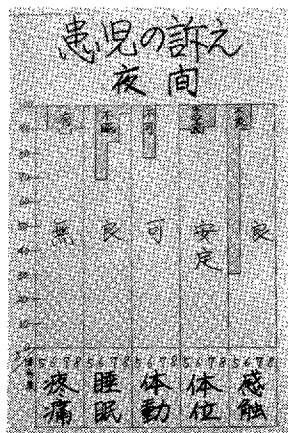


写真4



<おわりに>

自力で体動可能な患児が、フローテーションパットを使用することにより、動きにくいといった面もあるが、障害がすすみ介助が必要な患児ほど使用順番がすぎても「今度はいつ使えるの?」と待遠し気に催したり、疼痛の緩和、体位交換数の減少により睡眠時間の延長も得られ、成果はあがっている。今後共身体の清潔乾燥に留意しながら使用してゆきたいと思っている。

20) マットレスについての一考察

国立療養所東埼玉病院

前 村 久 子 齊 藤 由 利 子
 名 地 弘 子 物 永 こ ず ゑ
 福 田 悦 子

<はじめに>

進行性筋ジストロフィー症児にとって年々障害度も進行し骨格の変形、関節の拘縮等により長時間同一体位のまま就寝する事が不可能となり、夜間の体位交換数も多く睡眠が妨げられる。当病棟で現在使用中の各種マットレスについて検討し、障害度に応じ最も心良く睡眠出来るマットレスを選出し、より良いアプローチを試みる事にした。

<方 法>

クレーター、パーム、エヤー、三種類のマットレスを障害度別に1人が各種マットレスを2週間ずつ使用し調査した。

クレーターマットレスとは、スポンジ製で表面は凹凸になって弾力性にとんでいます。エヤーマ

マットレスとは、ビニール製で中に空気を入れ空気の移動を利用しています。パームマットレスとは従来からある綿製のマットレスです。

1. 患児の選出 1～4度児、5～6度児、7～8度児より各2名。
2. 調査項目 (1) 体位交換 (2) 通気性 (3) 諸症状の訴えについて

<結果と考察>

写真1は1日体位交換数の平均で最高最低を表わしている。1～4度児ではエアーマットで1回、5～6度児ではパームマットで5回、7～8度児では7回の体位交換がみられる。次に患児の不眠状態、体位交換の原因を調べると全体の%以上が肉体的苦痛と答えている。

通気性についてタオルケットをマットの上にしき使用前と使用后を測定した結果、写真2のごとくでクレーターマットレスでの吸湿量が多い事がわかった。

写真2

水分吸湿量

湿度 マットの 種類	1-4度		5-6度		7-8度	
	湿度		湿度		湿度	
	最高	最低	最高	最低	最高	最低
エアーマット	40g	6g	33g	11g	20g	8g
クレーターマット	45g	7g	40g	11g	41g	10g
パームマット	30g	5g	25g	10g	28g	5g

写真3

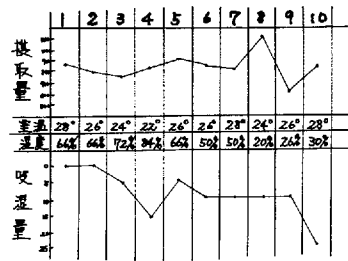


写真3は吸湿量の多いクレーターマットレスについての結果であるが、室温及び水分摂取量が水分吸湿量に影響がないことがわかった。

写真4、パームマットレスについての睡眠状態は1～4度児を除き30%の患児が不良と答え、肩こり、しびれでは全患児の4～7%が訴えている。

写真5、クレーターマットレスでの睡眠状態覚醒時の気分についてわずか7～8度児にて16%が不良である。肉体的苦痛は訴えなく全員が良好である。

写真4

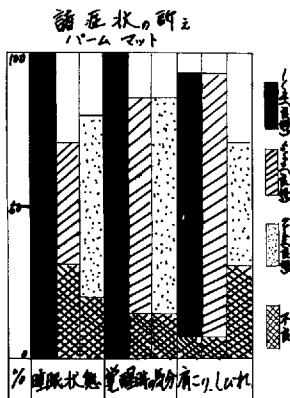


写真5

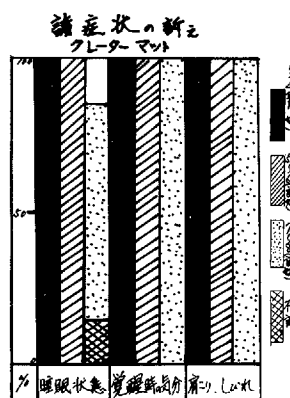


写真6

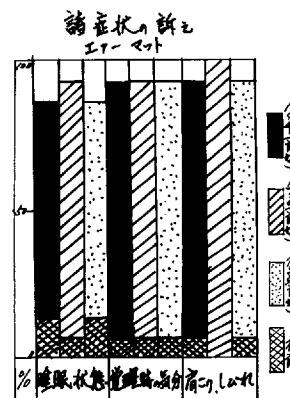


写真6、エアーマットレスでの睡眠状態、覚醒時の気分等は1～2%不良との答えであり肉体的苦痛も5～6度児を除き7%の患児が訴えている。以上種々試みて来たが総合してみると、肩こりしびれ等の訴えはクレーターマットレスの場合、全患児を通し少ないがパームマットレスでは訴えが多い。1～4度児では各種マットレス使用可能、5～8度児ではクレーターマットレスが適している事がわかった。

<おわりに>

私達は患児のニーズを把握しより良いアプローチを試みるため種々検討し、多少個人差はあるが患児のニーズにそった援助を始めた。今後、全患児に適応させ肉体的苦痛を緩和させる事が出来る様、今後尚検討しより良い援助をしたい。

2) 進行性筋ジストロフィー症児の衣服の改良 サブタイトル (改良ブーツ使用による血行 障害の予防)

国立療養所西奈良病院

大	下	千代子	地	石	孝	子
高	橋	三代	山	口	スエ	子
谷	口	君枝	中	島	京	子
木	下	美世施	山	岡	和	美
前	田	礼子	品	川	かよ	子
真	田	道子	橋	本	孝	司
山	中	みや子				

<はじめに>

進行性筋ジストロフィー症児特に車椅子期児童のほとんどに冬期は凍傷第一度が顕著に表わてきます。この為、従来より朝夕ユベラマッサージや温冷浴を当院でも冬中実施して来ましたが、これによる効果も少なく又児童も凍傷による搔痒感を訴えながらも処置の為に余暇時間の減少する事をいやがる傾向がみられました。その結果凍傷予防の為ハッキンカイロ入れ込み式ブーツを作製使用したところ児童からも好評を得ましたのでここに発表します。

<方 法>

ブーツ作製上考慮した点。

- (1) 布の選択=保温吸湿性に富むもの。木綿キルティング、厚さ1.5mm。
- (2) 大きさ=下肢の変形、スラックス入れ込み余裕。足底前後左右に1.5cmのゆとり。
- (3) カイロ入れ込み部分=出し入れが簡単。さし込み式にする。定温火傷予防。足底は二重にする。

↓
検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります
↓

<はじめに>

進行性筋ジストロフィー症児にとって年々障害度も進行し骨格の変形、関節の拘縮等により長時間同一体位のまま就寝する事が不可能となり、夜間の体位交換数も多く睡眠が妨げられる。当病棟で現在使用中の各種マットレスについて検討し、障害度に応じ最も心良く睡眠出来るマットレスを選出し、より良いアプローチを試みる事にした。